



Data

監督・脚本：ベン・ヤンガー
製作総指揮：マーティン・スコセツシ

出演：マイルズ・テラー／アールン・エッカート／ケイティ・セイガル／キアラン・ハインズ／テッド・レヴィン

■ショートコメント■

◆本作は、自動車事故(車の正面衝突)で骨を折り、医者からは歩けるようになるかどうかも分からないと告げられながら、奇跡的な復活を果たした実在のボクサー、ビニー・パジェンサの実話に基づく物語。これが、モハメド・アリ(カシアス・クレイ)やマイク・タイソンなら世界中の誰もが知っているボクサーだが、ビニー・パジェンサって一体誰・・・?その基礎知識がない上、事前の宣伝も少ないから、本作のヒットは無理。そんな予想どおり、本作は公開初日の土曜日ながら客席はガラガラだ。

もともと、ラッセル・クロウが主演したボクシング映画『シンデレラマン』(05年)も、実在のボクサー、ジム・ブランドックの実話に基づくもので、一般にはなじみの薄い人物だったが、それなりにヒットした(『シネマルーム8』218頁参照)。すると、両者の差異は一体どこに・・・?

◆他方、シルベスタ・スタローンが主演した『ロッキー』シリーズは完全な創作。また、プロレス映画の名作『レスラー』(08年)も創作だったが、同作で主人公を演じたミッキー・ロークはアカデミー賞主演男優賞は逸したものの高い評価を受け、映画は大ヒットした(『シネマルーム22』83頁参照)。

それは俳優が有名だったこともあるが、本作で実在のボクサー、ビニー・パジェンサ役を演じるのは『セッション』(14年)で懸命にドラマを叩く若者ニーマン役を演じたマイルズ・テラーだ。同作では教師役を演じたJ・K・シモンズの怪演が超目立っていたため、マイルズ・テラーの影が薄かったのは気の毒だった(『シネマルーム35』40頁参照)。他方、『シンデレラマン』ではラッセル・クロウがボクシングの試合でそれなりのボクシング技を見せてくれたが、さて本作にみるマイルズ・テラーのボクシング技(芸)は・・・?

◆大怪我から見事復帰したプロのスポーツ選手は、あちこちの世界にたくさんいる。現在は低迷しているが、読売巨人軍を率いている高橋由伸監督もその1人だ。しかし、本作の

ビニー・パジェンサの怪我は首の骨の骨折だからチョー重症。そして手術後、彼が頭の上に乗っているのは、ボルトを頭の中に通して固定するハローベストというもので、中国の皇帝サマのようなものだから、その異様な姿にビックリ！私が2015年9月に直腸がんの手術を受けた後、約半年間付けていた人工肛門（パウチ）も大変だったが、ビニーのこの装置は、見た目はもちろん、日常生活における本人の負担も絶大だ。これでは、毎日生きていくのがせいじいばいだろう。

そう思いながら観ていると、ビニーをチャンピオンにまで引き上げてくれたコーチのケビン・ルーニー（アーロン・エッカート）に対して、ビニーが再度のコーチ依頼をしたからビックリ！私も近時フィットネスクラブで筋トレを始めたが、ビニーの場合は頭に大きな装置を付けたままの筋トレだから、さらに大変。もちろん、今はビニーを同居させている父親のアンジェロらにしてみれば、ビニーがそんなトレーニングを開始するのは絶対許すことができないものだ。しかして、その後のストーリーは・・・？

◆日本でも、マスコミはボクシング界における辰吉丈一郎や亀田三兄弟の物語をたくさん報道してきたが、自動車事故で瀕死の重傷を負い、保持していたタイトルを失い、失意の中にあつたビニー・パジェンサが復活！しかも、2階級引き上げてタイトルマッチに挑戦！そうなると、マスコミがそれを大きく取り上げたのは当然だ。しかし、スクリーン上でそんな展開を見ていると、正直「これは、ホンマかいな？」と思ってしまう。しかも、その結果はボクシング映画お決まり通りの勝利、タイトル獲得。

こりやかなり嘘っぽいなと思っていたが、字幕が流れる中で、本物のビニー・パジェンサの姿が映し出されると、やっぱりこれはホントらしい！それを見ると一気に、ビニーに対する尊敬と感動の思いが大きく膨らむことに……。もともと、映画の出来としては、肝心のボクシングの試合のホンモノぶりがイマイチのこともあり、標準レベル・・・。

2017（平成29）年7月26日記